

体験談「日月門コースを受講して～延命十句観音経との出会い～」

JPHMA 認定ホメオパス No.0689 沖縄県 池間 早苗

©2025JPHMA&池間早苗

第 26 回 JPHMA コングレスの開催にあたり、お祝いを申し上げます。霊性向上に資するため由井寅子先生が開講してくださいました「日月門コース」を受講して得られた気づきについて書かせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

「受講の動機」

受講の動機は昨年父親が亡くなったことです。生前の父には複雑な思いを抱いて故郷を離れ、わだかまりを解消することができませんでした。母は健在で妹と暮らしておりますが、妹は両親の離婚後に生まれており、家族 4 名が一堂に会することは一度もありませんでした。妹も「自分にとっては、育ての父が父である」と言い切っております。

由井先生がよくおっしゃいます「来るものはみな受け取る」というお言葉を思い「実の親と和解できなかった。家族であるのに全員そろうことがなかった」ということが意味するものは何だろうと自問し、霊性を高めることで、この体験をのりこえたいと思いました。さいわい受講が叶い、ご指導を受けることができました。ありがとうございます。

「延命十句観音経との出会い」

講座においては霊性や霊格について深く学びます。祝詞や般若心経、マントラを毎日唱えるという課題もあります。魂の乗り船である肉体を良い状態に保つための呼吸法やヨガの講習もありました(一番楽しかったです！)。講座の後は直会(なおりい)で、共に学ぶ皆様と質問を共有して、理解を深めています。この場を借りて、感謝申し上げます。いつも、ありがとうございます。

また「延命十句観音経(えんめいじゅっくかのんきょう)」というお経を教わりました。当方が若気の至りで妊娠中絶したことを今も悔いていると相談したところ、唱えるとよいと助言されました。実はこのお経に心を打たれ紹介したいと思い、この文章を書いています。まことに恐縮ですが、どうぞおつき合ください。

「観世音(かんぜおん)南無佛(なむぶつ)輿佛有因(よぶつういん)輿佛有縁(よぶつうえん)仏法僧縁(ぶつぽうそうえん)常樂我淨(じょうらくがじょう)朝念観世音(ちょうねんかんぜおん)暮念観世音(ぼねんかんぜおん)念念従心起(ねんねんじゅうしんき)念念不離心(ねんねんふりしん)」

意味は「観世音菩薩に帰依します。我々は仏と因縁でつながっています。三宝の縁によって常樂我淨を悟ります。朝にも夕べにも観世音菩薩を念じます。観世音菩薩を念じる思いは我々の心より起こり、また観世音菩薩を念じ続けて心を離れません。」

「仏、法、僧」を三宝といい、仏はお釈迦様のこと、法は念仏の教え、僧は仏の教えを信じ教えを求める人々のことです。

「常楽我浄」とは観音様がさずけて下さる四つの徳で、常德とは「無常の世の中を生きていくため無常を大切にしていくと、やがては不安のなくなる平常心が具わる」こと、楽徳とは「苦の世の中を生きるには、苦を良く噛みしめていくと苦からいろいろおそわり、苦が苦痛でなくなる」こと、我徳とは「自分一人の力で生きるのではない。さまざまな縁に助けられ支えられて生かされ、また、他を生かしていくという自利他利のはたらき」のこと、浄徳とは「苦だ楽だと分け隔てをしない。浄だ不浄だと選り好みをしない平等の智慧と慈悲」のことです。

観音様は人々の声(音)を観じて救う、人々を極楽浄土へ導くとされています。怒りと悲しみにまみれた私でも、悩み苦しみは超えられると励ましてくださる。わずか 42 文字、唱えるたびに希望に満ち、涙が止まらずに、今もおります。

由井先生が考案された「水のレメディ―」もとっています。外出先でレメディ―がとれない時は、先生の著書「スピリットウォーター I・II(ホメオパシー出版、2023年)」をカバンにしのばせ、開いてみることもあります。霊性向上に励みたいのに、がんばりが足りないと自分を責めたい気持ちになる時、なぐさめられています。

「受講して気づいたこと」

いまさらですが自分には、未解決な心のわだかまり「インナーチャイルド」があり、得手勝手な思い込みも多いのだと気づきました。たとえば息子と娘にも同じ思いで接してなく、手伝いをしないということについて、息子なら仕方がないと許せるのに、同性である娘に対しては不満に思うなど、まったく公平性に欠ける、あきれた親であると、反省しました。

親も人である。家族は共に生きなければならない？ 離れることは悪？ そんなことはない。正しいこと、決まったことなど一つもない。家族の数だけスタイルがある。全部自分の価値観から苦しみを生み出しているのだということに、気づけました。

母の連れ合いも先立ち、父も亡き人となった今、母と妹に電話をする時、誰にも気がねをせずに話せるようになったことに、ふと気づきました。それぞれの暮らしがあり、なかなか会うこともないかもしれないがそれでも、家族。あるがままでよいと、心から思えるようになりました。

「さいごに」

霊性向上をめざしつつも、さまざまな思いに翻弄される日々ですが、ふっと思い出して手を合わせ、心を静める。昨日よりも今日、今を大事に、よくしていこうと思います。

宗教は個人の自由であり強制されるものではありませんが、謙虚、感謝、慈悲の心は、人としてよりよく生きるため、大切なものと思います。もし次年度も講座が開かれるようでしたら、よろしければ皆様も、ご検討なさってみては、いかがでしょう。お読みくださりありがとうございました。